

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001026		
法人名	有限会社イマージュ		
事業所名	グループホーム夢あかり		
所在地	北海道小樽市長橋3丁目17番17号		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町村受理日	令和4年3月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/017/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kan=true&JigyouvoCd=0172001026-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/017/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyouvoCd=0172001026-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和4年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、入居者様一人ひとりのペースで、生活していただけるようケアさせていただいている。食事時間や就寝時間等も、皆様で集まる時間は決まっているが、その日の体調や気分に合わせて、臨機応変に対応させていただいている。現在女性の入居者様が多く、歌や花・折り紙などが好きな方が多いので、お好きなことに触れられる機会を作っているよう心掛けている。ホームの建物が平屋の1階建ての為、比較的物音も少なく、ゆっくりとした気持ちで過ごしていただけるのではないかなと思う。職員の入れ替わりも少なく、入居者様の日々の安心感に繋がっていると感じている。立地面では、近くに高校があり、外気浴中に学生の子供たちと交流する機会もある。近所に住まわれている方も、入居者様と同年代の方が多く、ホームに遊びに来られたり、食べ物を持ってきてくださったりと、日ごろから交流させていただいている。また、体調不良の時など、ホームに相談に来られたりすることもあり、地域の一員として活動させていただいている。現在はコロナウィルスの影響でいろいろと制限がかかってしまっているが、その中でドライブや、食事面で工夫し、屈辱な日々とならないよう取り組ませていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はバス停や高校に至近の住宅街に在り、病院や商店等が点在しています。開設以来、近隣住民とは親しく交流し、コロナ禍に於いても良好な共助の関係を築いています。この2年程、感染症対策の徹底を図り、参集交流や自由な外出は控えていますが、状況により買い物などは柔軟に個別支援で対応をしています。また、事業所内では、日々の食事が利用者に喜んでもらえるよう工夫を凝らし、正月にはお節料理と懐かしい地元食である鯨汁を振舞っています。職員はできる限り楽しい一日だったと思えるよう、一人ひとりの気持ちを受けとめ、介護計画の支援目標に掲げ、その人が願う具体的日常の提供に力を注いでいます。散歩時に草花を摘んだり、学生達と挨拶し合い、家事仕事や趣味の編み物や歌を楽しんだり、降雪時は雪かきに精を出す人もいます。また、医療面では訪問診療と外来受診の同行支援、法人看護師の訪問体制を整えています。家族には、隔月のホーム便りと担当職員が毎月送る手紙に写真を添え、少しでも不安が払拭できるよう配慮しています。利用者を取り巻く環境として職員は優しく、家庭的な居場所感を創り出しており、チームケアで理念の実践に取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際に理念を唱和し、共有できるよう心掛けている。ケアの際にも入居者様の気持ちに沿ったケアを行う様、心掛けている。	地域に根付いた運営を明示した事業所理念は、要所の掲示や毎朝の唱和により、職員のケアの指針として浸透しています。利用者に関わりながら、どのように過ごしたいか心に沿った支援ができるよう日々取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍により、交流の機会は減っているが、日々の挨拶や、雪かきや草むしり等を通じて、交流を行っている。また、行事の際にも参加していただく機会を作っている。	例年は近隣の方々と密接な交流が行われ、行事等でも一緒に楽しい時間を過ごしています。コロナ禍の現在、感染症対策を講じながら、職員を中心に共助の姿勢で良好な関係の継続を心掛けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から相談があったり、地域の方々に協力を依頼したりすることで、地域の方々との情報共有につなげている。実際に協力をさせていただく事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍により、報告のみとなっている為、意見交換は行えていない。	コロナ禍以前は、地域包括支援センター職員のほか、家族や地域の立場から多数の参加があり開催しています。現在は事業所内開催として定期に実施し、利用者から行事内容について意見や要望が出されています。構成員には議事録で報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や生活支援課の方が主となるが、日頃から相談を行い、必要時は直接伺うことで、関係づくりにも努めている。	行政には、制度上の不明点や懸案課題があれば適宜相談しています。意見や情報の交換は、報告書類の持参、ケースワーカーの来訪、ZOOMによる集団指導等で行い、より良い運営に反映しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内会議の際に適切に対応が出来ていたか、また間違ったことをしてしまっていたか等、反省も含め話し合いを行っている。施錠については、夜間のみ防犯目的で玄関の施錠を行っている。	身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。玄関は日中施錠せず、近隣とも気軽に行き来できる環境であり、抑圧感のない暮らしの提供に努めています。指針を整備し、毎月の廃止委員会や定期的な研修で具体的な行為や認知症の理解を深め、自身のケアをふり返り、認識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、社内会議の際に話し合いを行っている。また研修を行うことで、質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや成年後見センターと連絡を行い、入居等も含め相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にホーム見学をしていただき、事前に説明を行った後に、契約を行っている。入居後も随時疑問等に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在はコロナ禍により、機会の場を設けることは減ってきているが、職員より毎月ご家族へ手紙での報告や、個別に日々の状態や受診結果を報告し、ご家族の意見を確認させていただいている。	隔月のホーム便りで生活の様子を報せ、さらに毎月手紙に写真を同封し、家族の安心に役立てています。家族とは電話等でも話しやすい関係を築き、特に利用者のケアに係る変化は細かく相談し、意向を聞き取っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度社内会議を行い、その際に意見交換を行い、運営に反映させている。	運営状況は現在月1回の書面を介して職員間で共有し、日々の申し送りで一人ひとりの様子を話し合い、意見や提案を運営やケアに生かしています。管理者も業務に入り、また代表者も随時来訪して事業所内の実情を把握し、より良い運営や就労環境作りに取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々での面接を行う等をし、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在はコロナ禍により、外部研修の機会は減っているが、健康管理等違った形で経験を積んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部との関係を強化し、サービスの質の向上に努めている。ただ、コロナ禍により他事業者との交流は行っていない。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前より、フェースシートや面談を通じて生活状態やご本人の状況の確認をし、安心した生活を送っていただけるよう努めている。		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前より、ホーム見学等を通し相談・説明を行い、安心したサービスとなるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の情報をもとに仮サービス計画書を作成し、サービスを提供させていただく。その際に情報と実際の様子が異なる場合は、現状のニーズに沿ったサービスを提供させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	難しい事は支援させていただいているが、出来ることは、日々の家事やレクリエーションも一緒に行っている。一方的にサービスを提供するのではなく、相手の意向も確認させていただく様心掛け、良好な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍により、お会いしていただく機会は減少してしまっているが、電話や月1回の手紙等を通して、ご家族と情報共有を行い、ご本人の生活がより良いものとなるよう、一方的ではない関係作りを目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍の為、外出の機会は減少してしまっているが、電話や手紙のやりとりのサポート等をさせていただき、これまでの関係が維持されるよう努めている。	家族や友人等の手紙や電話を取り次ぎ、関係が途切れないよう支援しています。昔話を聞いたり、レク活動や日常の中に懐かしい時間や遊戯を取り入れ、正月には福笑いや羽子板作りを楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの関係を把握し、日々の生活が楽しいものになっていただけるよう、座席も配慮させていただいている。日々の交流に職員も積極的に参加し、関りが強いものとなるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、随時相談を受け、関係のつながりを大切にさせていただいている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の記録等を参考に、情報共有を行い、理念に基づいたケアが行えるよう念頭においている。ホーム内のみで難しいことは、ご家族にも協力いただき、希望の実現が出来るよう努めている。	利用者の毎日に寄り添いながら、その表情や思いを引き出す工夫をし、気持ちよく楽しく生活できるように支援に努めています。職員の気付き、家族からの情報も加えて、その人らしく過ごせる方策を検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等に協力して頂き情報共有し、日々の生活がより充実した暮らしになるようサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの介護記録の他に、ケアチェック表や健康管理表を作り、健康面・心理面の状態把握に努めている。又、病院受診・往診の際にも医師に提示し、現状報告を行い、診察の情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の際はモニタリングやカンファレンスを行い、適切なプランであるか確認を行い、職員間の情報共有を図っている。また、変更がある際は、設定期間前にプラン変更の検討を行っている。プランの中には、ご本人・ご家族の希望も反映させていただいている。	介護計画は、本人、家族の意向を踏まえ定期や変化の状況に応じ見直しています。医療関係者の助言や職員の意見、アセスメントやモニタリング表を網羅し、新たな計画を作成しています。支援目標に好きな事や希望の実現も掲げ、計画に対する理念の反映が確認できます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアに活かせるよう記録以外でも個別ノートや健康管理表に記載し、いつでも見直しできるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ禍により、色々な機会が減っているが、当法人の介護タクシーや、ご家族の協力により、希望の実現が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍により、有効利用させていただく機会が減っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より関りがあった病院を継続して利用し、希望があれば、病院の変更や訪問診療等の対応も行っている。必要に応じて通院後の状況をご家族に報告させていただいている。	従前からのかかりつけ医の継続や協力医療機関の訪問診療の体制を整えています。外来の受診は事業所で行い、また法人看護師が毎週訪れる事で適切な医療受診につながっています。かかりつけ薬局を活用しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を記録等に記載し情報共有を行っている。週に1度の出勤時には申し送りに参加してもらい、状態確認を行っている。また、いつでも相談が行えるよう、体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在はコロナ禍により、電話での相談が主となるが、入院時は定期的に病院へ行き、状態の確認や、病院とのやりとりを行っている。また、個別に必要な応じて病院と連絡を取り、調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で説明をし、終末期に向けた現在の意思を確認し同意をいただいている。入居後も医師や病院に報告し、協力やアドバイスをいただいている。	終末期のケアについては契約時に説明し、重度化への経過の中で再度意向を確認し話合っています。事業所内では終末直前までのケアの実践があり、今後も協力医と連携し職員チーム体制を整え、本人・家族の希望に応じ、できる限りの支援を行う方針です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練等を通じ、緊急時の対応の訓練を行っている。現在はコロナ禍の為、消防職員の指導を受ける機会は減っているが、ホーム内で行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。また、地域の協力体制も築いており、コロナ禍の前には、実際に近隣住民に避難訓練に参加していただいていた。	年2回夜間想定訓練を実施しています。コロナ禍のため自主訓練ですが、例年は地域の参加を得て訓練を行っています。非常用備蓄品や防寒機器を確保し、近隣同業者と相互協力体制を交わしています。	年度内に火災時の避難訓練を予定しています。併せて地震災害時や日常の入浴や排泄など各ケア場面を想定し、予期せぬ事態に速やかに対応できるよう取り組みの強化を期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴等の介助も希望がある際は同姓介助のみでさせていただき、居室への入室時等も配慮を行っている。また、日頃の関係も、職員一人ひとりが入居者様一人ひとりと良好な関係を築けるよう心掛けている。	「入居者の意に添い…」という理念の一節を支援の根底に置き、利用者に関わっています。トイレや入浴時ケアの配慮、名前の呼び方などで人格の尊重を心掛け、温かく且つ親しき中にも礼節を持った対応を目指し、研修等を考慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から親しみやすい関係づくりを心掛け、思いを伝えやすい相手になれるよう目指し、傾聴の気持ちを大切にしている。また、一方的に行うのではなく、相手のペースを大切に、自己決定を促す場面を作れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	現在はコロナ禍の為、外出の対応が難しいこともあるが、一人ひとり日々、ご本人のその日その時の気持ちを大切に、出来る限り楽しい一日だったと思っただけよう、気持ちに沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔や歯磨きをはじめ、整容等も必要に応じ支援させていただいている。また、現在はコロナ禍であるが、カタログで選んだ商品を購入したりする際もお手伝いさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、職員と一緒に食事をする事は控えている状況であるが、出来る限り入居者様が気持ちよく食べていただけるよう、座席等配慮させていただいている。毎食後の片付けや、食前の準備等も出来る限り入居者様と一緒にやっている。	昼、夕食は外部の献立と食材を利用し、食べたいものは利用者と一緒に考え、好みを反映しています。アレンジ料理や季節に因んだ食事、焼きそばや月見団子など共に作る楽しさでも満足感につなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表にて摂取状況を把握し、少ない状況が続いた際にはご家族や病院に報告し、協力やアドバイスいただいている。また、体操やレクの後、動いた後に提供するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、一人ひとりに必要な支援をさせていただいている。またコロナ禍により、減少しているが、協力歯科の熊澤歯科に相談を随時行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員が同行させていただく事もあるが、出来る限りトイレでの排泄が行えるよう支援させていただいている。また、必要に応じ声掛けも行っている。	排泄が自立している人が多く、必要時に個別の排泄チェックでトイレ誘導をしています。立位が保てる限りトイレでの自然な排泄を支援しています。水分や食事、状態により下剤使用でスムーズな排便になるよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、定期的な排泄が行えるよう努めている。必要に応じヤクルトやヨーグルト等の食品により排便を促したり、病院に相談し下剤での調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	火曜日金曜日を入浴日とさせていただいているが、希望やその時の状況により入浴日以外に入浴も実施している。また足浴や手浴等、入浴以外の希望にも対応させていただいている。	週2回の入浴日を設け、時間や順番、同性介助の要望に応え、拒む場合や別の日の入浴希望も柔軟に対応しています。ヒートショックに配慮し、色や香りを楽しむ入浴剤も取り入れ、気持ちの良い入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間等は設けず、入居前の生活習慣を大切にしている。前日の様子等を確認し、日中の休息や運動を促したりし、快眠に繋がるよう努めている。ただ、食後の睡眠は体の負担等も考え、避けていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人担当の職員が服薬時間ごとに薬をまとめ、間違っていないかチェックし、服薬前にも2名以上で確認を行い、出来る限り飲み込んだ事を確認している。薬の変更があった場合は、個別ノートや健康管理表にて情報の共有に努めている。また薬局のかかりつけ登録を行い、一人ひとりのサポートをいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活や、力を活かした生活をしていただけるよう、アセスメントし、日々の生活や会話につなげられるよう、職員同士情報共有を行っている。また、食事や外出等、昔懐かしいものに触れられる機会も作れるよう努めている。日々の家事等も無理強いせず楽しんで行っていただけるよう努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、外出の機会は今中々作れていない状況である。	三密の外出機会は自粛しています。日常的には散歩や花壇を眺めたり、自販機でジュースを買いベンチで飲むこともあります。率先して雪かきをされる利用者もいます。戸外活動に代えて食の楽しみやレク活動、DVDで歌やドラマを視聴するなど、様々な個別の楽しみを案出し提供しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方もいらっしゃるが、現在は使う機会が限られてしまっている。職員が代わりに買い物を行ったり、敷地内の自動販売機にて購入される等の機会は作るよう心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な際は職員が電話番号を押ささせていただくこともあるが、希望があれば電話していただいている。また、年賀状や、日々の手紙なども、必要に応じ一緒に字を書かせていただいたりし、手紙のやり取りが継続できるよう支援させていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度などは必要に応じ調整している。季節の飾りや季節の花なども飾り、目だけではなく、においても楽しんでいただけるよう飾り付けを行っている。また日中はできる限りカーテンを開け、日光を取り入れるようにしている。音楽やテレビなども流し、その日の出来事や思い出話に繋がるよう支援させていただいている。	採光の良いリビングにはソファや食卓が設置され、個々の関係性を考慮して心地よい居場所作りをしています。温湿度等も良好に保ち、清掃面や気になる刺激に配慮しています。年中行事や季節に応じた装飾をし、自然や時の流れを身近に感じ取れるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をする際の席は、できる限り気の合う方と一緒に食べられるよう配慮している。人数の少ないときには、席を移動し楽しい食卓とならないよう努めている。またソファ等でゆっくりされる方もいらっしゃる、お好きなように過ごしていただける様配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来るだけ以前から使用していた物をお持ちいただけるようにしており、ご家族ご本人と相談し、ご本人が過ごしやすいような配置に努めている。又、必要な物があればご家族と相談し、協力やご用意させて頂くこともある。	入居時のリロケーションダメージに配慮し、馴染みの調度類の持参を勧めています。家族の写真や大切な仏壇などを配置し、趣味の編み物道具等も手元にあります。本人や家族と相談し安心・安全に過ごせる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、安心して歩行が出来るよう手すりの設置を行っている。又、自立した生活が出来るよう、目印等を付け、場所の見当が付きやすいようにしている。困っている様子があれば、声掛けを行い、安心して過ごせるよう配慮している。		